

見ス其跡ニ藪ガ友渡邊勘兵衛鳥毛ノ半月ノ大指  
 物ヲカシ黒ノ馬ニノリ只一入山ノ尾崎ヨリ城ニ乗ケ  
 ルヲ秀吉見テ何者ゾト姓名ヲ問レテ感稱ニアツカ  
 リ武名ヲ擧タルハ大指物ノ故ナリ或曰戰場ニハ必ス  
 軍事ニ監タル役アリテ戰畢リテ後ニソノ主將諸手  
 ノ別將ト證ヲ正シ例ヲ引テ功名ノ品ヲ論シ定テ  
 少モ偏頗ナカラシム然ルニ目ニ見ルトコロノミヲ取  
 テ見ガル所ヲツミビラカニ問サルハ非也コレヨリ下ニ  
 戰功ノ實ハ少ノ節ヲ銜リ名ヲ售テ豊祿ヲ得ルニ至  
 若正ヲ以テ士衆ヲ帥ヒ嚴ヲ以テ軍令ヲ定メ虚名ヲ措  
 テ實功ヲ擧言辨ヲ捨テ行事ヲ取上下枉ス欺サレ

ノ良將アラバ縦ヒ倍々ノ人数ナリトモ共ニ鋒ヲア  
 ラソフベカラス運ニ乗レテ幸ニ勝者ヲ則トスル  
 ナカレ是ニコトニ軍事ノミニアラス刈牧ノ治世ニ  
 下ヲ御スルモ此ノ如クナラスハ其國虚偽多シテ  
 武士ノ風俗廢レナシ  
 一 小田原ノ城ヲ攻ルニ及テ北國ノ兵士ニ強弓アリ城  
 兵ソノ矢ニアタリテ死傷スル者多シ城中ヨリ傳聞  
 鎮西八郎爲朝能登守教經モ此弓勢ニ増ラレトテ  
 モノ夏ニ其面ヲ見シ今一矢トゾ言ケル秀吉サラス射  
 ヲトテ小高キ所ニ立顯レ大弓大矢束浦引スル處ヲ  
 城上ノ女垣銃眼ヨリニツ玉ノ銃炮ニテアヘナク打

281  
2

コロス秀吉ヒテヨレ大キニ激怒ケキドシテ敵ハ軍イノチノ法ホフヲ知シラサル  
 ヤト射書ヒヤレヨヲ以テ譴誚ケンセウセラル氏政ウヂニサコレヲ知シラス非善ヒキ  
 ノ至イタリナリトテ銃炮テツポウヲ放ハチチタル者モウヲ斬キツテソノ首ク  
 ヲ秀吉ヒテヨレヘ送ラクラレケル

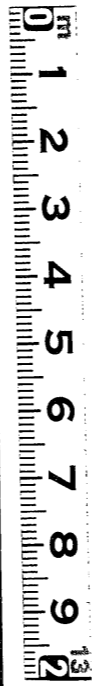
近代正説碎玉話卷之二終

近代正統  
全話

武將感狀記

三

281  
5



近代正說碎玉話卷之三目錄

北条氏規勇義之事

伊達政宗服從秀吉之事

太田三樂知松田之異心事

明智左馬助與黃金於入江事

高山右近之從士甘利之功名事

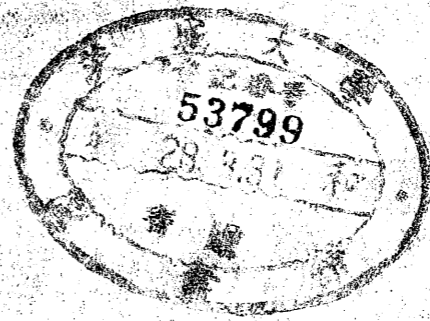
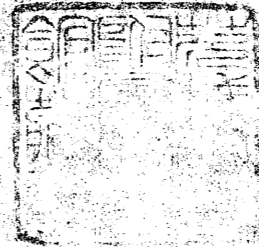
源君於長篠敗勝賴之兵事

勝負理因少競事

山崎庄兵衛於越中牧功名之事

佐々成政遭利家之後援而敗軍事

酒井忠次於長久手功名之事



本多平八郎勇烈忠心之事

鳥井金次郎於長久手一番鎧事

平松金次郎雖性勇不好喧嘩事

成瀬隼人於長久手戰功之事

夏目長右衛門於美方原討死事

鳥井四郎左衛門內藤弥九郎討死事

嶋津豊久敗宗像之師事

佐々陸奥守代平一揆事

加藤清正與大山彈止合鎧事

嶋津取琉球事

嘉明與高虎於韓嶋爭戰功事

田路勘四郎於朝鮮助衣笠事

加藤清兵衛於蔚山擊漢南之兵事

漢南人引取蔚山事

清正使庄林隼人引揚人衆事

堺善左衛門殺薩人梅北事

中村九郎兵衛漕糧於朝鮮事

穴井奪浦上之先登事

謙信送鹽於甲信事

龍造寺隆信討蒲池重弁事

黒田孝高領豊前責紀伊谷事

謙信使商人窺見諸國事

齋藤道三以直鎗得勝利事  
同道三與其子義龍合戰事

近代正説碎玉話卷之三

淡庵子 編輯

北條規義

一秀吉小田原ヲ攻ルコト數月ニシテ拔ス秀吉諸將ノ心ヲ試シタメニ帥ヲ旋ニヤ否ト問レケレバ小早川左衛門佐隆景今帥ヲ旋サレナバ氏政勢ヒヲ得テ復圍ノトキ守禦稍固カラシ謀ヲ以テコレヲ攻陷ニシカジト諫メケレバ秀吉本ヨリ其心ナル故ニ隆景ヲ稱ゼラル二十餘萬ノ兵ヲ三手ニ分テ一手ヲ以テ城ニ對シテ營陣ヲツラ子攻戰ヲ罷テ軍備ヲ堅ス一手ハ間暇ノ體ヲ示ス城中コレニ氣ヲ屈ス宇喜田宰相秀家ノ攻只八岩槻ノ城主北条十郎氏房

コレヲ拒ク秀家城中ニ矢留テ請テ使者ヲ以テ南  
 都樽三荷生綱十尾ヲ贈テ貴君久ク守ルノ劬勞言  
 へカラス候。今贈ルトコロノ酒肴ハ此ヲ以テ士卒ヲ慰  
 ラレンコトヲ欲ス貴君ノ守計古ノ良將ニモ愧べカラ  
 ガルノ三今日好ヲ通ルトモ明日攻撃ノ時鄙生ヲ斬  
 ニ者ハ貴君ナラシ貴君ヲ殺シ者ハ鄙生ナラシ是私ノ  
 憤アルニアラス各其主ノ爲ニスル故ナリト云遣シム  
 ハ氏房ソノ志ヲ感ズ氏房モ亦使者ヲ以テ伊豆江川酒  
 ヲ秀家ニ贈テ報謝ス此ヨリ後シバく使ヲ通ズ秀  
 家氏房ニ面談セント欲ス氏房コレヲ聞タカヒニ長  
 陣ノ患困ヲ云其後面談シテ秀家子ガハクハ和議

ヲ調ヘラレヨ若然ラバ京都ニライテ貴君ヲ享シ具  
 足曹ヲ脱テ肩衣袴ニテ好會ヲナサバ豈樂マザラシ  
 ヤト云氏房同心シテ和議ヲ調ルニ皆承引スビトリ  
 北条美濃守氏規ノ三是秀吉ノ謀計ナリ今成ヲ行  
 ハ始ヨリ戦ズシテ降ルベシ敵ヲ引受ルホドナラバ  
 此城ヲ以テ葬ノ地トスベシ面々云カヒナク掬ト成  
 テ見苦キ死ラセシト云氏規韭山ヲ守ルトキ敵外郭  
 ヲノリトル氏規自奮ヒタカヒテ其日其時コレヲ取  
 カヘシタル驍將ナリ氏政氏輝截腹シ氏直高野山ニ  
 趣キ小田原没落ス秀吉氏規ノ勇義ヲ感ジテ七千  
 石ヲアタヘテ酒茶ノ料トス其子久太郎ニ別ニ三千

石ヲ與ヘテ近仕セシムル氏規死シテ久太郎合テ一  
萬石ヲ領ス 徳川ノ御世ニ至テ北条ノ子孫此ヲ  
以テ相續ケリ

一伊達左京大夫政宗二十四歳小田原ノ陣ニ來リテ臣  
從セシコトヲ求ム諸將只今セムル氏政ヲ患ヘズレテ  
小田原陷ラバ其次ハカナラズ陸奥ヲ征代セラレント  
却テ正宗ヲ患ヘタル折レシナレバ皆コレヲ悦フ秀吉  
オモヒノホカニ遲参ヲ怒リテ正宗ガ胸中ヲ商量スル  
ニ我ト氏政トノ兵勢ヲ規テ我ヨハクハ來ラント密ニ  
人ヲ付置タルトコロニ氏政ノ諸壘陷ラレ小田原モ又  
拔レシコト且晡ニアリト聞テ今此ニ來ルナラシ實ニ心

服スルニ非トテ使ヲ以テ責ラシケレバ正宗敬屈ノ  
過ヲ謝ス二三日スギテ秀吉具足服織ヲ著牀几ニ  
尻カケテ禮ヲ受ラル正宗拜謁シテ退シトスル時  
秀吉遲参ヲ惡トイヘドモ對顔ヲ許ノ上ハ念ニ止メ  
ズ此マデ遠來ノ馳走ニ陣營ヲ見セシ後ノ山ニ登レ  
トテ先ニ立レケレバ正宗跡ニシタカテ山ニ登ル奥  
州ニ於テ小迫合ニハ馴タリトモ大合戦ノ人衆配リ  
ハ未ダ見ルベカラズ爰ノ營ハ此理ナリカレコノ陣ハ此  
意ナリ見置テ手本ニセヨト一々指テ教ラル秀吉刀  
ヲ正宗ニ持セ童子一人具シ片岸ニ立テ終ニ後ヲ省  
ズ正宗ヲ蠹虫トモ思レ又體ナリ正宗後ニ我小田原ニラ



イテ秀吉ニ謁セシ時カ、ルコトアリ其時久々恐レ  
入タルバカリニテ一念ノ害心起ラズ大器ニシテ天威  
アリシ人ナリト語ラレキ

太田三樂齋松田異心

一太田三樂齋小田原ノ攻口ニアリ松田尾張守ガ手ヲ  
見テ異心アリト云此特松田ステニ秀吉ニ誘レテ内通  
ス三樂コレヲ知ズレテ其言當レリ秀吉コレヲ奇テ白  
何ノ見ル所ゾ三樂ガ云松田ガ勇謀人ノ恐ルハトコロ  
ナリ今日軍備ヲ正サズ諸卒ヲイマシメズ役所ヲ巡  
ズカレ素ヨリ臆スベキ者ニアラス心ヲ味方ニ通ルカ  
故ナリト秀吉嗟嘆シテ 源君ニ對シテ曰今此三ツ  
ノ不思議アリコレヲ知ルヤ 源君ノ曰一ツハ三樂ナラ

明智與黃金於入江

ニツハコレヲ解ズ秀吉ノ曰我匹夫ヨリ起リテ天下  
ニ主タリ三樂ガ知アリテ一國ヲモ有コトヲ得ズコレ  
ニツノ不思議ニアラスヤ

一明智光秀山崎合戦ニ敗テ己ニ討レタレドモ明智左馬  
助ハ坂本ノ城ニ入テ猶コレヲ守ル秀吉將ニ命メカコミ  
攻ルコト急ナリ城兵散亡シテヤカテ陷ヌベク見ヘケレ  
ハ明日諸軍一同ニ四方ヨリ攻入ントス入江長兵衛一番  
乗ヲ心掛テ曉方ヨリ屏下ニ附テ明ルヲ建シトゾ待  
居タル左馬助檣ニ上リ狭間ノ板ヲ細メニ披キテ見  
下レケレバ屏下ニ人アリ敵カ身方カト怪ムトコロニ  
入江ナリ入江八日來相識テシタレカリレニ由テ如

何ニ入江殿トコソ見テ候へ此城陥リ我身死セシ  
 コト今日ヲ限リニ候未期ノ一言ヲ以テ願ハ貴殿ニ  
 遺サント詞ヲカクル入江櫓ノ上ヲキツト見テオホ  
 ルハ明智殿カ何事ニテ候ソト云左馬助鉄炮ヲ以テ  
 貴殿ヲウタシコトハイト易ケレ庄勇士ノ志ヲ感ジ  
 止ノミ我少カリシ時ヨリ戰場ニ臨ムコトニ魁殿ノ  
 功ヲ心トシテ武名ヲ揚ント勵タレドモ畢竟是身ヲ  
 刹レ子孫ノ後榮ヲ思フニアリ然レドモ天命チヅマル  
 トキハ今日ノ吾ナリ生前イクバクカ危厄ヲ侵シ艱  
 苦ヲ嘗タルモ終ニ成トコロナクシテ此ノ如クナリヌ  
 貴殿モ亦カクノ如クナルベキノ三同クハ仕ヲ罷身安

高山從子甘利之助

處テ危ラ踏ザレ我貴殿ニ黄金ヲ與シコレヲ恒ノ  
 産ニセラレヨトテ二百兩入タル革袋ヲ投出ス昔  
 三百兩ハ今ノ三千兩ニモサレリ入江其詞ヲ然リ  
 トレテ軍ハテ後仕ヲ罷メ京師ニ引籠テ貨殖シ  
 富家トナリ歡樂ヲ極ム然レドモ武夫ノ本意ニ  
 アラス  
 一山崎合戦ノ時高山右近薙刀ノ鞘ヲ脱シ牀几ニ腰ラ  
 掛テ未兵刃ヲ接ガルトコロニ高山ガ從士其利ト云  
 者ツ子ニ寵遇ナクシテ未坐ニノ三居タリケルガ高  
 山ガ前ニ來リテ跪キ爰ニ兩義ノ決シガタキコトノ  
 候恐ナカラ尊公ノ判断ヲ承リタキト云高山何事